

メディアを活用した交流学习を通し、課題を追究する児童の育成

～ 振り返り活動を取り入れて～

研究のねらい

1 はじめに

インターネットをはじめとした情報メディアの急速な発達により、空間や時間の制限を受けることなくコミュニケーションを取ることが可能になった。その中でより多くの人とコミュニケーションを取るには、独りよがりな考えに陥らず、様々な人の意見を尊重し、考えを述べる力が重要である。

本研究で対象とした6年生は、昨年度、「お米作りに使用する農薬問題」を考える上で、山間部の学校と交流学习を経験してきている。そこでは、農家が多い交流校の児童から「高齢化が進むことで、農薬を使わざるをえなくなっている。」といった、これまで意識できなかった生産者の立場に立った意見を聞くことができた。これは、地域差を生かした交流学习ならではの成果である。しかし、その後、学習を進めることがなかったため、多くの児童は「新しい意見を知った」ととどまり、当初にもった考えをそれ以上に深めることができなかった。そこで、様々な人の意見を尊重し、自分の考えを見つめ直したり、お互いが歩み寄って意見の違いを埋めたりする「振り返り活動」を取り入れた交流学习を繰り返し行うことで、自分の課題をより深く追求し、考えを深める児童を育成することを考えた。

以下に、振り返り活動を取り入れた交流学习の概要を述べる。

振り返り活動において、学習内容の深まりに応じた発表カードを活用する。

交流学习で交わす論議の内容をより明確にできる段階

友達の考えを聞き、その意見に対応する考えをもつ段階

友達の意見を尊重しながら、自分なりの主張をもつ段階

Eメールやホームページの掲示板を活用して、交流活動で生じた疑問をぶついたり、相手からの質問に答えたりしながら、自分の意見を見つめ直し、お互いが歩み寄って意見の違いを埋めることができる振り返り活動を行う。

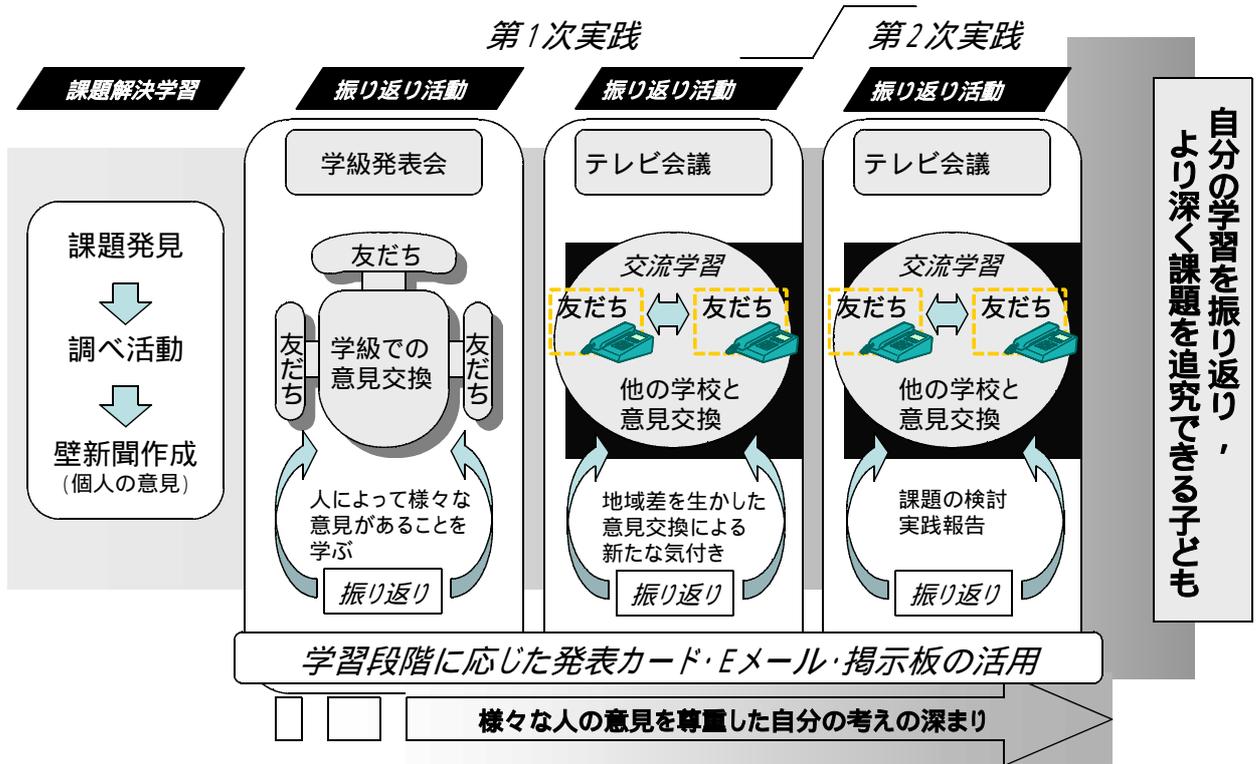
明らかにしたいこと

振り返り活動に学習内容の深まりに応じた発表カードを活用したり、Eメールや掲示板で疑問をぶついたり質問に答えたりすることにより、自分なりの主張をもち、自分の課題をより深く追求し、考えを深める児童を育成することができる。

研究の方法

1 研究の内容

指導の流れ



2 研究を実践するための具体的な手だて

(1) テレビ会議を活用した交流学习

学校放送番組「たったひとつの地球」のホームページをきっかけに、共に環境について学ぼうとする学校と交流学习を行う。生活環境の違いから生まれる意見の相違に気付くことで考えの視野を広げ、それをふまえた上で、自分の意見を構築することができるようにする。その手段として、離れた場所でも、絵や写真など、数多くの情報を交えながら、意見交換することができるテレビ会議を活用する。

(2) 学習内容の深まりに応じた振り返り活動の設定と発表カード

深まり	活動内容	手だて
振り返り活動	学級内で初めて行う発表会では、調べたことが思い思いに発表される。人によって様々な見方や考え方があることを学び、相反する意見や一見関係ないように思える意見であっても、自分の意見の糧とすることができるようにする。	発表カード 論議の内容を明確にする。 発表カード
振り返り活動	生活環境の違う児童と意見交流することで、新たに気付いたことや考えたことをまとめ、それを考慮した上で、最終的な自分の意見を壁新聞等に構築することができるようにする。	友達の意見を聞き、その対応を考える。 発表カード
振り返り活動	最終的な意見を発表し合ったテレビ会議を振り返り、これまで行った皆の活動を見つめ直す。これにより、自分の考えが、様々な意見を尊重した上でなり立っているものかを確認する。そして、自分の考えを実現することができるような手だてを、次の学習の課題としてもつことができるようにする。	友達の意見を尊重し、自分なりの主張をもつ。 Eメールや掲示板 自分の意見を見つめ直し、
振り返り活動	それぞれの学校で、環境のためにどんな活動ができるか(エコプロジェクト)	お互いが歩み寄って意見

	を考え、テレビ会議で意見交換を行う。その結果をもとに、エコプロジェクト計画を確立し、実際に活動できるようにする。	の違いを埋める。 テレビ会議
振り返り活動	それぞれの学校で行ったエコプロジェクトの成果や課題について話し合う。これまでの活動の結果は、両校のホームページや「たったひとつの地球」の掲示板に掲載するようにして、環境活動へのよびかけを広く行うようにする。	生活環境の違いから生まれる意見の相違に気付く。

3 基本的な考え

学習を振り返り、より深く課題を追究する児童を育成するために

第1次実践（5～9月） 「藤前干潟から学ぼう」

ごみ処分場として埋め立て寸前だった藤前干潟の学習を通し、環境保全か開発優先かの立場に立って、自分の考えをまとめることができるようにする。また、友達の意見を聞いて、自分の学習を振り返り、考えをより明確に表すことができるようにする。

第2次実践（10～12月） 「金田 - 南陽 - 笠戸 エコプロジェクト」

環境を守るために、自分たちでできることを考え、そのアイデアや実行方法についてテレビ会議により検討し、自分でできることを実行することができるようにする。最後に実践報告をテレビ会議で行い、成果と課題について考える。

研究の内容

1 児童の実態（調査日：H 15 . 4 . 30）

本題材において、児童がどんな思いをもって活動しているのか昨年度を振り返らせながら、交流学习について質問紙法によって調査した。その結果、「知らないことが分かった」、「学習したことがよく分かるようになった」と、新しい知識を得たことに喜びを感じ、全員の児童が昨年度の交流学习を「よかった」と述べていた。今年度も「相手の意見や考えを知りたい」、「相手の学校や地域のことを学びたい」と、交流学习に期待を寄せている。しかし、「もう少し自分の考えが言えたらよかった」、「意見のやりとりがしっかりできたら良かった」と反省する声も多かった。

振り返り活動を繰り返すことで、「今、自分はどんな学習に取り組み、どんな考えをもっていいのか。」という学習意識をしっかりともつことができれば、意見交換できる基礎が築かれ、交流学习を行う意義も深まると考える。そのためにも、学習をしっかりと振り返ることができる手だてを重要視していきたい。

2 評価について

（1）検証の観点と方法

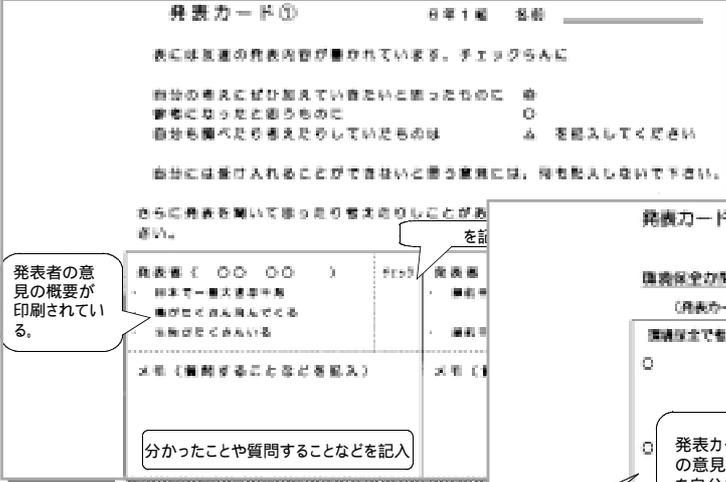
学級内での発表会やテレビ会議を活用した交流学习の中で、自分や友達の意見を振り返ることによって、人によって様々な見方や考え方があることを学び、他の人の意見を尊重した上で、開発優先に賛成か環境保全に賛成か、自分なりの考えを深めることができるようになったか（1次実践）、これからの生活のために自分ができることを考え、行動することができたか（2次実践）、を発表会の様子や「発表カード」の記述内容、再作成した「壁新聞」の記述内容からつかむ。

(2) 検証規準

発表カード

学級発表会では、自分の考えをしっかりと振り返ることができるように、下に示す2種類の「発表カード」を活用することにした。

「発表カード」



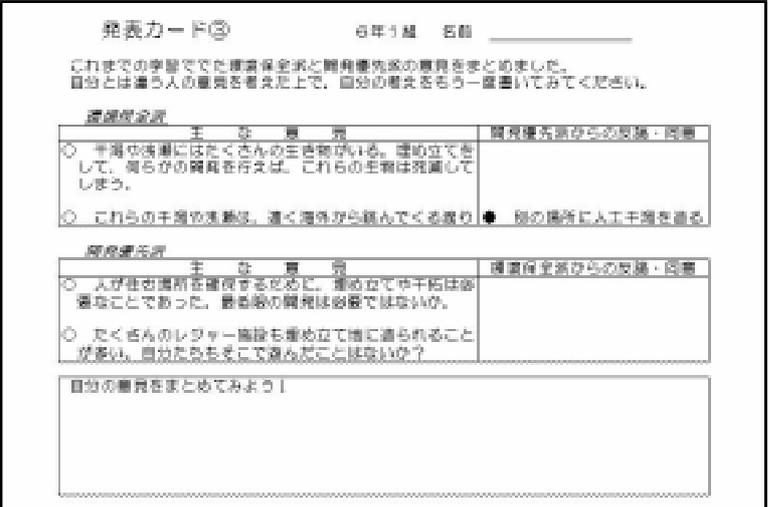
発表はポスターセッション（1グループ7～8名）で行い、友達の発表を聞くことで、友達の意見を知る。

「発表カード」

発表カードをもとに、友達の発表からどんなことが学べたかを考え、それを自分の考えにどう生かしていくか記述する。

「発表カード」

発表カードをもとに、友達の意見を尊重しながら、自分なりに主張することを記述する。



発表カードの検証基準

<p>友達の発表を聞き、自分の考えに生かすことができるかチェックを入れたり、自分の発表に対する意見をまとめたりすることによって、自分に足りなかった考えや検討しなければならない考えがあることに気付き、それに対する考えを具体的に記述することができる。</p>	
<p>友達の発表を聞き、自分の考えに生かすことができるかチェックを入れたり、自分の発表に対する意見をまとめたりすることによって、自分に足りなかった考えや検討しなければならない考えがあることに気付くことができる。</p>	

友達の発表を聞き、自分の考えに生かすことができるかチェックを入れたり、自分の発表に対する意見をまとめたりすることができない。また、自分に足りなかった考えに気付くことができない。

再作成した壁新聞

テレビ会議 を終えた後、最終的な考えを再度壁新聞にまとめる。

学級内での発表会や交流校とのテレビ会議で、自分とは違う考えをもった人がいることに気付き、その人の意見をふまえた上で、自分の考えを壁新聞に記述することができる。

学級内での発表会や交流校とのテレビ会議で、自分とは違う考えをもった人がいることに気付き、そのことを壁新聞に表現することができる。

友達の意見を聞いても、自分の考えについて見直す観点が分からず、当初作成した壁新聞以上に考えを深め、表現することができない。

3 抽出児童について

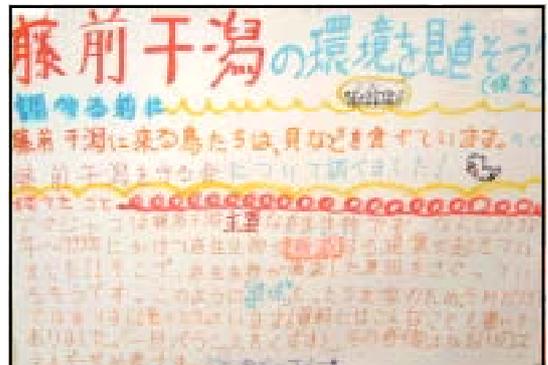
実態調査の結果、及び、初めに作成した壁新聞の内容を基に、環境保全にのみ目を向けているA児、開発優先を唱えた数少ない児童であるB児、開発優先に目を向けているものの環境保全を強く唱えるC児に着目し、その変容を追っていくことにした。

— A児について —

壁新聞では、「藤前干潟を守る会」の人々活動にふれ、干潟に生きる生物の調査結果や清掃活動の様子を知ったことから、自然は一度汚すと元に戻すのが大変であるので、環境は保全しなければならないと強く唱えている。

実態調査では、昨年度の交流学习を「知らないことが分かった」と評価する反面、「意見をかみ合わせるのが難しかった」と述べている。

しかし、「相手の意見や考えを学びたい」と今年度の交流学习には意欲的な考えをもっている。



【A児の作成した壁新聞】

— B児について —

壁新聞では、埋め立て地にも、水族館のようなアカウミガメを保護したり、干潟を守る研究をしたりしている施設があることを指摘した。また、都会の人が自然とふれあうことのできる「ビオトープ」や「磯場」「環境プロムナード」づくりなどが進められていることも紹介している。

しかし、経済を優先するあまり、環境保全を図ることができなかったような開発については述べられていない。

実態調査では、「知らないことが分かった」と交流学习を評価し、今年度の交流学习にも意欲を見せている。



【B児の作成した壁新聞】

— C児について —

壁新聞では、残っている自然は守るべきで、人間の勝手に自然を壊すのはだめと主張している。しかし、干潟にはごみが多く、このままでは生き物が減ってしまうという観点から、ごみ拾いなどの自然保護に協力しようという呼びかけも行っている。

実態調査では、「いいところ悪いところを言い合えた」と交流学习を評価するが、「もっと言い合いたかったが自分の意見をしっかり言うのは難しい」と述べている。今年度の交流には「調べたりまとめたりしたことを教え合いたい」「楽しさを味わいたい」と意欲的な考えをもっている。



【C児の作成した壁新聞】

指導の実際

1 第1次授業実践（5月30日実施）

(1) 題材 「藤前干潟から学ぼう」(20時間完了)

(2) 目標

ごみ処分場として埋め立て寸前だった藤前干潟の学習を通し、環境保全が開発優先かの立場に立って、自分の考えをまとめることができるようにする。また、友達の意見を聞いて、自分の学習を振り返り、考えをより深めることができるようにする。

(3) 実践の内容

ア 抽出児童の活動の様子

(ア) 振り返り活動 において

壁新聞を基に学級発表会を行い、友達の考えを聞いたり、自分の発表に対する意見を聞いたりして、考えをまとめ直した。

【観察児童A】(環境保全派)

発表カード の記述

干潟を埋め立てた場合、鳥の行き場はどうなるか？

遊園地などは干潟を埋め立てて造るのか

自分の新聞に足りなかった意見を参考にしたい

発表カード の記述 (A児が新たにもった考え)

確かに南陽も干拓地だが、生き物が住む場所をこれ以上減らす必要はない。

レジャー施設を造るのにも限度がある。防災対策もこれ以上必要か。

人工干潟では、自然の温もりがない。

人が壊した環境は、人が戻すのが生き物全体にとって平等だ。

(検証結果) 開発優先派の意見を聞いて、どう対応していくか考え、自分なりの主張をもてたが、反対理由を並べるにとどまり、開発優先派の意見を十分に尊重した主張とは言えない。

【観察児童B】(開発優先派)

発表カード の記述

環境保全派の意見については、次に書くときの参考にしようと思う。
やはり自然を守りながら開発することはいい。

発表カード の記述 (B児が新たにもった考え)

干潟には生き物がたくさんいるけれど、やはり新しいごみ処分場は必要だ。
開発しながらも、ビオトープをつくるなど自然を守るようにしているといい。
開発すると植物や生物は被害を受けるが、人が住むためなど埋め立ては必要だ。

(検証結果) 自分の発表に対する意見を考えることによって、開発のよさや問題点に対し考えを深め、自分なりの主張をもつことができた。しかし、環境保全の大切さを述べた意見を十分に尊重した主張とはいえない。

【観察児童C】(環境保全派)

発表カード の記述

藤前干潟の歴史や全国の干潟のことをもっと調べたい
ラムサール条約のことも、深く調べてみたい。
開発と言っても、自然を壊すものばかりでないということが分かったが、開発優先と言う意見もふまえて保全という意見で進めていきたい。

発表カード の記述 (C児が新たにもった考え)

開発は絶対ダメと思っていたけど、少しくらいならしやうがないと思った。
干潟には水をきれいにしてくれる生き物がたくさんいる。それに開発による自然破壊もとても深刻。しかし、人間が住むための場所や自然とふれあう場所は必要。
無駄な開発はすべきでないが、どこからよくてどこまでがいけないか分からない。
もっと自然を考えた行動はすべき。ごみはなくなるけど減らすようにする。

(検証結果) 開発優先派の意見を聞くことによって、自分の考えに足らなかったことに気付き、開発と保全がどのあたりで折衝すればいいか、考えを深めた上で、保全という立場を貫くという主張をもつことができた。

(イ) 考察

3名の観察児童共、友達の発表を聞くことによって、様々な意見があることを知り、自分の意見をより強固にするために、当初の考えより一歩進んだ考えをもつことができた。しかし、A児やB児においては、自分の意見を以前より多く記述するか、自分と違う立場の意見に対して反対理由を記述するか、にとどまり、自分と立場の違う人の意見を認めたり、折衝していこうという考えをもつには至らなかった。

様々な人の意見を尊重し自分なりの主張をもてるようにするためには、もう少し活発な意見交換を行い、友達の意見を考えながら、自分の考えを深めることができる場が必要であると考えられる。

イ 学級全体の様子

(ア) 考えの変化

環境保全派 28名 18名	開発優先派 2名 12名
---------------	--------------

(イ) 意見の根拠となる考え増加数

+1…6名	+2…10名	+3…12名	+4…2名
-------	--------	--------	-------

(ウ) 考察

新しく友達の考えを知り、これまでの自分の考えを振り返ることによって、自分の立場を確かめたり、意見の根拠となる考えを増やすことができたりするなど、ある程度自分の考えを深めることができたことは、成果があったといえる。しかし、自分とは違う意見にどう応じていけばいいか悩みを生じるなど、相手の立場や考えを十分に考えた上で主張する意見としてはまだ不十分なところがある。

そこで、児童の考えを進展させるためにも、交流学习を早急に始動させたい。異なる地域に住む児童から出される、これまでとは違う意見を聞いた上で自分の考えをまとめることができれば、課題を十分深めることができたものとする。

今後の研究計画

1 交流学习の進め方

「たったひとつの地球」の掲示板にそれぞれ自分の考えを書き込んだところ、同じように学区に干潟をもつ千葉県木更津市の金田小学校4年生と瀬戸内に浮かぶ自然いっぱいの島、笠戸島にある山口県下松市立笠戸小学校5、6年生11名と交流学习を進めることが決まった。意見交流による交流学习の成果を追い求めていきたい。

2 第2次授業実践

(1) 単元「金田 - 南陽 - 笠戸 エコプロジェクト」

(2) 実践のねらい

環境を守るために、自分たちでできることを考え、そのアイデアや実行方法についてテレビ会議により検討し、自分でできることを実行することができるようにする。最後に実践報告をテレビ会議で行い、成果と課題について考える。

(3) 実践の内容

段階	活動内容	手だて	活動形態
振り返り活動	1次実践を振り返り、自分たちでできることはないかを考え、それを行動に移す。	テレビ会議 発表カード	グループ
振り返り活動	エコプロジェクトを振り返り、成果と課題について話し合う。また、ホームページや番組掲示板などに活動報告を掲載する。	テレビ会議 ホームページ 掲示板	個または グループ

(4) 長期研修で明らかにしたいこと

交流学习の成果と課題について全国の事例を探り、今後の展望を図る。

また、学習を振り返るために活用できると考えられる手だて(デジタルポートフォリオなど)について研究を深める。